

平成 18 年度通常（第 2 回）理事会議事録

日 時： 平成 19 年 2 月 24 日（土） 14：00～16：30

場 所： 東京都夢の島マリーナマリセンター2 階会議室

出席理事：（敬称略、順不同）

山崎達光、河野博文、戸田邦司、昇隆夫、前田彰一、井手正敬（委任：山崎達光）青山篤、安藤淳（委任：山崎達光）石橋國雄、稲葉文則（委任：外山昌一）大庭秀夫、中野佐多子、前田多満枝、小池祐司、棚橋善克、野口隆司（委任：外山昌一）伊藤宏、篠田陽史、河内道夫（委任：河野博文）大門功（委任：昇隆夫）吉田豊、宮崎史康（委任：猪上忠彦）猪上忠彦、馬場正彦、外山昌一、西田昭二（委任：前田彰一）名方俊介

以上 27 名、内委任状 8 名

出席監事：高田尚之

以上 1 名

欠席監事：一條實昭、貝道和昭

以上 2 名

オブザーバー：中山明参与・総務委員長、鈴木保夫参与・会計委員長、戸張房子国際委員長、川北達也ルール委員長、箱守康之競技力向上委員長、古川保夫外洋統括委員長、木村治愛日本レーザークラス協会会長、大谷たかを、豊崎謙広報委員

議事の経過及び結果

（定足数の確認）

理事 27 名、出席者 26 名（内、委任状 8 名）により、寄附行為第 29 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

寄附行為第 19 条に基づいて、山崎達光会長が議長となり、平成 18 年度通常（第 2 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を昇隆夫専務理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、石橋國雄、吉田豊の両理事が任命された。

（山崎会長挨拶）

山崎会長から、現理事各位におかれましては、2 年間の理事職を心より御礼申し上げます。心残りは、財政の健全化に着手しているが成就していないことです。会員数の減少は賛助会員の減少にも影響を与え、より一般会計の健全化を成せないことにある。理事各位には、繰り返し、会員増強と賛助会員獲得にご協力をお願いしたい。また、その他重要案件につき、ご審議いただきたいとの挨拶があった。

< 審議事項 >

1) 平成 19・20 年度理事欠員の補充について

昇専務理事から資料に基づき、平成 19・20 年度理事欠員の補充について説明があった。選挙管理委員会において平成 19・20 年度役員選出業務を遂行され、前回理事会において結果報告がなされたが、水域選出理事の内、中国・九州水域については、受付締め切り期限の時点で選出要件が整わなかったため、水域構成団体である外洋西内海・外洋玄海・外洋南九州に対して、受付期日を平成 19 年 1 月 22 日まで延長処置を執る旨、連絡した。受付期限延長通知と同時に「要件が整わない場合は、水域理事推薦は不成立とする」との説明がなされた。上記連絡にもかかわらず推薦は得られず 1 名欠員となる状況となったため、理事総数 27 名を確保して次期連盟運営の円滑推進体制を構築するために、会長推薦理事候補者数を 1 名増員することとする旨、発言があった。

吉田理事から、昨年来、外洋水域理事の区分の見直しを進めて理事会で決定した。その趣旨は、JSAF 離れが進むなか、地方の声を理事会に反映しようという趣旨で水域区分が決められた経緯がある。この経緯を無視して、水域理事の空席ができたからといって、その理事枠をこの水域とは関係のない方を補充するのは、その趣旨からは大きく逸れるもので、JSAF を支えてくれている地方の声を消してしまうのではないかとの見解が示された。

石橋理事から、今回の処置はやむをえない処置と考える。再び起こらないような規約の整備が必要でありとの発言があった。

河野副会長から、この水域理事選出のケースに対応した規定がなかったことが原因であるため、この期の中に規定を決めて、2 年後には見直したい。また、秋山新理事にこの件の対応を纏めていただけるようお願いするので、理解願いたいとの発言があり、このあと採決された。

賛成 25、反対 2 で、承認された。(出席理事の全員の賛成)

山崎会長から、河野博文氏、秋山雄治氏、古川保夫氏、青山篤氏、古屋静男氏、倭千鶴子氏の 6 名を会長推薦理事候補とする旨、発表があり理事会で選出された。

2) 平成 18 年度第 2 次補正予算(案)について

鈴木会計委員長から資料に基づき、平成 18 年度第 2 次補正予算(案)について説明があった。募金・寄付金収入が第 1 次補正予算と大きく変わったため、第 2 次補正予算を作成することとした。

一般会計

収入については、日建レンタコムより 1,500 万円の協賛金を頂いたため、協賛金

収入を増額した。免税募金収入も増えたため、繰入金収入を1,659,000円増額した。結果、当期収入合計は16,659,000円増額の146,309,000円となった。

支出について、日建レンタコムの協賛金事業に連動して大会講習会費を1,500万円の増額とした。弁護士費用及び外洋計測におけるORCANとの清算費用が発生したため、雑費を200万円増額して2,555,000円とした。会計士等報酬についても50万円増額した。結果、当期支出合計は1,750万円増額の160,304,947円となった。当期収支差額が841,000円増えて13,995,947円の赤字となり、次期繰越額は4,231,451円となった。

オリンピック特別会計

収入については、補助金等収入4,445,000円、負担金収入10,580,272円、募金・寄付金収入2,652,390円の合計17,677,473円が増え、免税募金から繰入金収入9,193,326円減となり、当期収入合計は109,903,094円となった。

支出については、事業費5,259,367円の増額、管理費が622,819円の減額となり、計4,636,548円増額となり、予備費支出を除いた支出合計は99,080,548円となった。当期収支差額は3,847,599円となり、次期繰越金額は17,273,455円となった。

免税募金会計

当期収入は11,361,520円増の45,898,520円、当期支出は収入に連動して増額となり48,348,520円となったとの発言があった。

承認された。

3) 平成19年度事業計画(案)について

専務理事から資料に基づき、平成19年度事業計画(案)について説明があった。2008年北京オリンピック上位入賞の目的を達成するため、セーリング人口の増大が大切である。以下に重点項目を挙げる。全国セーリング拠点(ヨットハーバー、マリナー)の指定管理者制度導入に積極的に取り組み、活動本拠の充実を図る。平成20年大分国体より少年男子、同女子種目に中学生3年生の導入が決定したことに伴い、ジュニアヨットクラブ活動の充実に取り組む。合わせて入門艇であるOP級の普及にも昨年同様取り組む。平成20年度におけるセーリング競技ナショナル・トレーニングセンターの実現に向けて、JOC及び文部科学省に対して働きかけを行う。19年度に行われる各種目の世界選手権において北京オリンピックの出場権を獲得する。各地のヨットクラブの活性化を促すために外洋艇によるクラブ対抗レースを推進する。また、すでに行われている琵琶湖におけるディンギー3クラブ対抗レース等のディンギー系クラブ対抗レースの充実化も推進する。引き続き、環境キャンペーンを行うとともに、ISAF100周年、JSAF75周年の記念イベントを実施するとの発言があった。

中山総務委員長から、ルール委員会項目12の委員会委員への交通費補助については、

収入のない委員会との整合性も考えて項目から削除することを提案するとの発言があった。

鈴木会計委員長から、旅費交通費規程も含めて、委員会事業費の実態を把握する必要がある。収入のある委員会は講習会での現場での収入から旅費交通費を捻出している場合もあり、ルール作りが大切であるとの発言があった。

河野副会長から、検討することに留めるとの発言があった。

承認された。

4) 平成 19 年度予算(案)について

鈴木会計委員長から資料に基づき、平成 19 年度予算(案)について説明があった。平成 19 年度予算(案)作成にあたって、各委員会の予算要求を取り纏めたところ、収支差額が 22,843,000 円の赤字となった。平成 18 年度は 17 年度の繰越金があったため、約 1,300 万円の赤字予算作成が可能だったが、18 年度からの繰越金が 400 万円以下となることが予測されるため、当期収支をマイナスにしないことを目標とし、平成 18 年度の実績を基に収入・支出を厳しく見直した。また、19 年度は環境の寄付金を、スポンサーを考慮して用途が明白になるようにするため特別会計とした。

一般会計

収入については、賛助会費は 18 年度の実績を考慮して 550 万円の減額とした。加盟団体負担金は、18 年度のメンバー登録が前年度に比べ約 1,000 人減っているが、19 年度は会員の増員に努力することとし 200 万円増の 5,100 万円とした。協賛金はゼロとした。免税募金繰入金収入は免税募金特別会計から 582,000 円、環境特別会計から 500,000 円の合計 1,082,000 円とした。オリンピック特別会計からの繰入金は基金事務手数料の 500 万円と広告負担金(18 年度は J-Sailing 広告料) 10,945,000 円の合計 15,945,000 円とした。広報委員会収入は広告料収入 120 万円、ホームページ広告料として計 140 万円を計上した。総合賠償責任保険は今年度より、外洋加盟団体にも保険料を負担していただくこととし、250 万円計上した。ルールブック販売収入は 100 万円とした。その他委員会の事業収入は、委員会要求案とほぼ同一とした。結果収入合計は 128,387,000 円となった。

支出については、管理費支出を 18 年度の実績を基に削減した。忘年会新年会の支出については、収支をさらにプラスにすることとし、支出をゼロ計上とした。事業開発委員会についてはカレンダー制作費 18 年度の実績に合わせ、60 万円減額した。その他の委員会事業についても 18 年度の実績も考慮し、さらに支出を減らすため交通費、会議費等を中心に削減した。オリンピック特別会計への繰入金支出は 10,945,000 円とした。予備費を大幅に減らし 100 万円としたが、支出合計で 131,387,000 円となった。結果、当期収支が 300 万円の赤字となる予算(案)を作

成した。

オリンピック特別会計

収入については、18年度予算に対して事業収入 550 万円の増額、負担金収入 300 万円の減額、募金・寄付金収入 1,699,390 円の増額、繰入金収入は 10,969,273 円の減額とした結果、18年度に対して差引 6,769,883 円の減額となり、収入合計は 94,649,064 円となった。

支出については、事業活動支出は 13,626,200 円の増額とし、支出計では 108,070,200 円となり、当期収支差額では 13,421,136 円の赤字予算となった。

環境委員会特別会計

収入 441 万円、支出は全日本の補助金 200 万円、一般会計への繰入金 50 万円を含めて 410 万円とし、次期繰越金は 31 万円となった。

免税募金特別会計

収入は18年度に対して16,538,480円の減額で17,998,520円、支出は18,988,480円減額の17,998,520円となったとの発言があった。

承認された。

伊藤理事から資料に基づき、加盟団体負担金の見直しについて提案があった。加盟団体（都道府県連盟）負担金は、メンバー登録数を基準に設定され、500人を上回っていた4都県連盟負担金が1万円高く設定された。また、艇種別協会負担金は、年度登録数を基準に設定され、当該団体負担金が1万円高く設定された経緯があることから、毎年基準に照し合わせた見直しを行うべきである。これより、加盟団体については、基準を統一し、メンバー登録数500人以下の団体負担金を4万円とし、艇種別協会についても、年度登録数を確認し、見直しを行って欲しい旨、説明があった。

5) 2016 東京オリンピックセーリング会場検討委員会について

昇専務理事から資料に基づき、2016 東京オリンピックセーリング会場検討委員会について説明があった。2016 年オリンピックに東京都が立候補しているが、セーリング競技会場について東京都及び JOC から当連盟の意見を求められている。連盟としては、自然条件・立地条件・社会条件・オリンピック後の利用価値等多面的に検討し、最適の場所を提案するため、ISAF 及び IOC 視察に対応する準備をすすめたい。東京オリンピックセーリング会場検討委員会の設置の件、同委員会委員の選定を会長に一任することを承認いただきたいとの発言があった。

河野副会長から、組織は場所の選定のみだけではなく、総合的な検討をする。また、委員会名称を「東京オリンピック招致委員会」とする旨、発言があった。

承認された。

6) 評議員の変更について

昇専務理事から資料に基づき、評議員の変更について説明があった。香川県ヨット連盟の葛西和久評議員から齋藤修氏に変更する旨、発言があった。
承認された。

7) 会長表彰規程改訂について

中山総務委員長から資料に基づき、財団法人日本セ・リング連盟表彰規程（改訂案）について説明があった。前回理事会協議事項からの変更は若干の文字訂正のみである。この規程に基づき平成19年度定期表彰の推薦依頼書を3月評議員会で配布するとの発言があり、承認された。

< 協議事項 >

1) レーザー級の国体採用について

木村レーザー協会会長から資料に基づき、レーザー級の国体採用について提案があった。日本レーザークラス協会は、若いセーラーに国際舞台への可能性を与えることで、ジュニア・ユースからシニアまで成長途中にブランクをつくることなく、競技力を向上していただくことを念頭に、国民体育大会少年男女および成年シングルハンダーにレーザー・レーザーラジアル級を採用していただくことを理事会でご理解いただきたいとの発言があった。

河野副会長から、国体委員会・競技力向上委員会・オリンピック特別委員会では検討しているのかとの質問があった。

昇国体委員長から、検討しているとの発言があった。

箱守競技力向上委員長から、国体とユースとの区分も含めて、ジュニア・ユース育成で検討していくとの発言があった。

山田オリンピック特別委員会委員から、選手強化の立場から継続して検討していくとの発言があった。

< 報告事項 >

1) 平成19年度JSAF行事予定(案)

昇専務理事から資料に基づき、平成19年度JSAF行事予定(案)について報告があった。

2) ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点について

河野オリンピック特別委員会委員長から資料に基づき、ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点について和歌山県を選定した旨、報告があった。

篠田選定委員長から、選定委員会としては、公平・透明性のもとにすすめてきた。インフラや維持管理など点数性とし、特に自治体の協力に関して重みをつけた。自治体の協力はほぼ同じだったが、海域状況と交通費の差で和歌山県を選定したとの発言があった。

3) 2007年JSAFナショナルチームについて

河野オリンピック特別委員会委員長から資料に基づき、2007年JSAFナショナルチームについて報告があった。2月1～8日まで神奈川県葉山で開催したナショナルチーム選考レースにおいて、23艇36名の選手が決定した。また、北京オリンピック日本代表候補選手選考方法の改定につき、JSAFホームページに掲載するとの発言があった。

4) ルール委員会活動報告について

川北ルール委員会委員長から資料に基づき、ルール委員会活動報告があった。2月8～12日、福岡県セーリング連盟のご協力を得て、「ISAF IJセミナー/ワークショップ」が開催された。海外から2名、国内から16名の参加を得て無事終了した。全国高体連ヨット専門部から、インターハイ予選としての水域大会における上告権利の否認申請について認めるとの発言があった。

5) JSAF 新年会・アジア大会報告会決算報告について

河野副会長から資料に基づき、JSAF 新年会・アジア大会報告会決算報告があった。収支差額500,313円のプラスであったとの発言があった。

6) 1月末予算管理月報について

鈴木会計委員長から資料に基づき、平成19年1月末予算管理月報について報告があった。

7) 共同主催・公認・後援願いについて

名方レース委員長から資料に基づき、共同主催・公認・後援願いについて報告があった。共同主催1大会、公認4大会、後援1大会であるとの発言があった。

8) 平成19年度全日本選手権等日程について

名方レース委員長から資料に基づき、平成19年度全日本選手権等日程について報告があった。3月評議員会までに判明したレース日程は報告するとの発言があった。

9) 平成 19 年度外洋加盟団体レーススケジュール(案)

戸山理事から資料に基づき、平成 19 年度外洋加盟団体レーススケジュール(案)について報告があった。本年度は IRC レーティング採用につき、採用するレーティング有無を記入いただいた。また、3 月評議員会までに判明したレース日程は報告するとの発言があった。

10) 平成 19 年 2 月 21 日現在メンバー登録状況

伊藤会員増強委員長から資料に基づき、平成 19 年 2 月 21 日現在のメンバー登録状況について報告があった。総数 10,315 名との発言があった。

11) 平成 18 年度臨時(第 4 回)理事会議事録(案)について

武村事務局長から資料に基づき、平成 18 年度臨時(第 4 回)理事会議事録(案)について報告があった。

12) その他

戸張国際委員長から、昨年 11 月 ISAF 総会において、ロンドンオリンピックからセーリング競技のメダル数を 11 個から 10 個、選手総数を 420 名から 380 名(内、女子比率 38%)に変更になったとの報告があった。また、大谷たかを氏から、オリンピックでのセーリング競技はメディアに対応するべく変改が求められている。ISAF イベントコミティでは、種目の見直しも議論されているとの報告があった。河野副会長から、男女 470 クラスについては、国際 470 協会も継続するよう申請していくことから、日本も強調していくとの発言があった。青山理事から資料に基づき、ISAF100 周年キャンペーンについて報告があった。スポンサー獲得も含め、キャンペーンを検討しているとの発言があった。昇専務理事から、天皇家に献上したオリンピックアヨレを来年葉山において鑑賞できるとの報告があった。

平成 18 年度通常(第 2 回)理事会は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名捺印する。

平成 19 年 2 月 24 日

議 長 会 長 山 崎 達 光

議事録署名人 理 事 石 橋 國 雄

議事録署名人 理 事 吉 田 豊